平成27年度(26年度実績) 総合評価書 < 施設名 サンホーム滝呂 >

1. 指定管理者名	社会福祉法人多治見市社会福祉協議会
2. 指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日
3. 業務の範囲	①サンホーム滝呂の事業の実施に関する業務 ②目的外使用許可にかかる事務 ③サンホーム滝呂の使用許可業務 ④サンホーム滝呂の維持管理に関する業務 ⑤管理運営業務 ⑥サンホーム滝呂の管理運営に必要な業務

4. 採点表		評価項目	細目	配点	採点基準	実績(パーセントを求める場合は、小数点第1位を四捨五入)	分析、評価、指示等	得点
1	運営・利用状況(40点)	(1)利用状況(10点)	①施設の利用率(利用時間/日数×営業時間)	10	平均値比(注) 105%以上:5点、 105%未満～95%:4点、 95%未満～85%:3点、 85%未満:2～0点	平均値比とは、当該評価対象年度の利用率を次に掲げる値で割って求めた率をいう。 (1)指定管理期間1年目前指定管理期間における利用率の平均値 (2)2年目以降指定期間における当該評価年の前の年の利用率の平均値(例:4年目の場合は、1～3年目の平均利用率) (3)新規施設の場合又は施設内容の大幅変更等により(1)、(2)によることが不相当であると判断される場合他の類似施設における利用率実績に所要の調整をして算出した値 平均値比(●●%)=利用率(●●%)÷上記(1)、(2)又は(3)	老人センターは、開館時間中(9:00～17:00)は、自由来館としている。 児童センターは、開館時間中(10:00～18:00)は自由来館としている。	
			②利用人数	10	平均値比(注) 105%以上:5点、 105%未満～95%:4点、 95%未満～85%:3点、 85%未満:2～0点	平均値比とは、当該評価対象年度の利用人数を次に掲げる値で割って求めた率をいう。 (1)指定管理期間1年目前指定管理期間における利用人数の平均値 (2)2年目以降指定期間における当該評価年の前の年の利用人数の平均値(例:4年目の場合は、1～3年目の平均利用人数) (3)新規施設の場合又は施設内容の大幅変更等により(1)、(2)によることが不相当であると判断される場合他の類似施設における利用人数実績に所要の調整をして算出した値 (2)に該当 ①老人センター 26,339÷24,090≒109% ②児童センター 14,660÷11,667≒126% ③その他 920÷409≒224% 全体 41,919÷36,166≒116% ※今回は指定管理4年目の評価のため、本来は上記(2)を適用するが、25年度に利用人数のカウント方法を延べ人数から実数へと見直したため、算出に1～3年目(22～24年目)の平均利用人数を使うことは実態とそぐわない。従って、25年度の利用人数で26年度の利用人数を割ることで平均値比を求める。	<老人センター> ニーズを的確に反映し、新規教室を積極的に開催することで、利用者を大きく伸ばした。 <児童センター> ・移動児童館を積極的に行ったことにより、児童センターへ来館する乳幼児親子が増加した。 ・夕方に大型遊具を使った事業を積極的に行ったことにより、小学生高学年の来館者が増加した。	
		(2)市の事業の企画・運営・実施状況(仕様書内)(15点)	15	仕様書以上:15～12点、仕様書に忠実:11～9点、仕様書の一部不実施(軽微):8～7点、仕様書の一部不実施(中程度):6～3点、それ以下:2～0点	<児童センター> 別紙「事業評価表」のとおり。事業評価表より13点 <老人センター> 別紙「事業評価表」のとおり。事業評価表より14点	仕様書以上 14点	<老人センター> 仕様書以上に実施。多世代交流事業に幅広く取り組み、新規事業も複数企画実施し、参加者を昨年度の1.9倍に増加させている。その他ニーズに迅速に対応することに努め、利用者数は伸びている。アンケート結果や参加者の感想で高評価が多かった。 <児童センター> ・仕様書の事業をすべて目標回数以上行い、適正に実施した。 ・地域や施設内の老人センターとも連携した事業を実施している。 ・乳幼児から小中学生まで幅広い層の来館がある為、臨機応変に交流事業やイベントを行う等利用者が楽しめるよう努めている。	14点
		(3)自主事業の企画・運営・実施(15点)	15	内容・事業数等が期待以上:15～12点、内容・事業数等が例年通り:11～9点、内容・事業数等が例年よりやや劣る:8～7点、内容・事業数等が例年より劣る:6～3点、内容・事業数等が例年よりかなり劣る:2～0点	<児童センター> 別紙「事業評価表」のとおり。事業評価表より13点 <老人センター> 別紙「事業評価表」のとおり。事業評価表より12点	期待以上 12点	<老人センター> ・独自事業として10事業に取り組み、参加者からはいずれも高評価を得ている。なかでもきらめきクラブは男性の参加にも留意し、参加者が昨年度の倍以上となった。 <児童センター> ・例年行っている事業の他に、社会福祉協議会の特性を活かした新規事業として福祉体験等を開催した。 ・野外活動、移動児童館などニーズの高いものを充実させた。 ・地域の特性を活かした事業を適正に行った。 ・同指定管理者の児童館の交流事業を積極的に行った。	12点

評価項目	細目	配点	採点基準	実績(パーセントを求める場合は、小数点第1位を四捨五入)	分析、評価、指示等	得点	
施設管理 状況 (25点)	(1)施設管理業務の実施状況 (10点)	①清掃	①チェック細目の丸数字の各項目を3段階評価する (適正(普通):2点、一部不備あり:1点、不備あり:0点) ②5項目の合計点とする。 ※駐車場は、期待以上:8点、適正(普通):6点、一部不備あり:4点、不備あり:2点	通常清掃 毎日実施 定期清掃 床清掃を業務委託により年2回実施	適正(普通) 2点	適正に実施されている。	10点
		②保守・点検		定期点検を業務委託により以下のとおり実施 空調設備(年2回)、ボイラー(年2回)、消防用設備(年2回)、エレベーター(月1回)、トイレ警報(年2回)、地下重油タンク(年1回)、自動ドア(年2回)、遊具器具安全点検(年3回)	適正(普通) 2点	適正に実施されている。	
		③保安・警備		夜間機械警備(毎日)、電気保安(毎日)業務委託	適正(普通) 2点	適正に実施されている。	
		④小規模修繕		<老人福祉センター> ①シャワー水栓修繕、②浴室修繕(タイル)、③シャワーヘッド交換 <児童センター> ①2階遊戯室ガラス修繕、②2階遊戯室網戸修繕	適正(普通) 2点	修繕が発生した場合は速やかに対応した。	
		⑤危険箇所の把握(施設の瑕疵)		職員による安全点検・業者による遊具の点検	適正(普通) 2点	日常の業務の中で危険箇所を把握し危険箇所があった場合は速やかに対応した。	
2 施設管理 状況 (25点)	(2)その他管理業務の実施状況 (15点)	①文書管理	①チェック細目の丸数字の各項目を4段階評価する (期待以上:3点、適正(普通):2点、一部不備あり:1点、不備あり:0点) ②5項目の合計点とする。	市の文書管理方法(ファイリングシステム)に準じ適正に管理	適正(普通) 2点	適正に実施されている。	10点
		②環境への配慮		・市の環境方針に準じて対応。省エネを念頭に市のエネルギー使用量調査に対応 ・毎月1回、施設周辺の清掃を全職員の輪番により始業時間前に実施 ・その他、業務時間外でも節電の徹底、メール利用により紙の使用量を削減、資源ごみリサイクルの実施、裏紙使用の徹底、葦簀による日除け、水やりなどの暑さ対策などに取り組んでいる。	適正(普通) 2点	適正に実施されている。	
		③バリアフリー		・施設内のバリアフリー化。障がい者用トイレ、洋式トイレ、手すり、自動ドア、エレベーター、身障者用駐車場の設置 ・車椅子利用者、視覚障がい者等の通行の支障にならないよう備品等を配置 ・従事者向けの研修を実施	適正(普通) 2点	適正に実施されている。	
		④備品管理		毎年、備品台帳を修正し管理	適正(普通) 2点	適正に実施されている。	
		⑤個人情報保護		多治見市社会福祉協議会の「個人情報保護管理規程」により個人情報記載書類は鍵のかかるキャビネットで適正に管理	適正(普通) 2点	適正に実施されている。	
		⑥事故等への対応		事故等への対応は減点対象とする(事故なし及び事故等の対応に不備なし:0点、事故等対応に不備あり:△1点)	事故の発生はなかった。	事故なし・対応に不備なし 0点	
3 当該施設の経営状況 (5点)	①事業収支	5	(H26年度収入÷H26年度支出×100) 34,706,096÷41,775,170×100= 83% ○参考 <施設管理> 16,771,151÷25,081,830×100= 67% <老人センター> 6,455,495÷ 8,573,034×100= 75% <児童センター> 11,479,450÷ 8,120,306×100=141%	100%未満 3点	<施設管理・事業全体> 施設長を準職員から正職員に変更したことにより、人件費が前年度比で4,790,511円増加したほか、水道光熱費が前年度比で832,834円増。これらにより施設管理では8,310,679円の赤字。事業全体で70,690,741円の赤字となった。 <老人センター> 全体としては前年度と同様の収支。教室の充実で教養娯楽費、消耗器具備品費支出が若干増えた。結果として2,117,539円の赤字となったが、教室等参加者からの受講料収入は参加者増に伴い増え、赤字幅は縮減している。 <児童センター> 指定管理委託料の範囲内で事業実施でき、3,359,144円の黒字となった。	3点	

評価項目	細目	配点	採点基準	実績(パーセントを求める場合は、小数点第1位を四捨五入)	分析、評価、指示等	得点	
4 より良い施設運営のための取組(30点)	(1)市民・利用者の声の反映(15点)	①ニーズの把握・事業への反映	10 期待以上:10~8点、適正(普通):7~5点、不備あり:4~1点	<施設管理> ・アンケートボックスを常設し、随時意見を受け付け、意見があれば回答も公表している。 <老人センター・児童センター> ・クラブ等の際にアンケート実施するほか、来館者へ口頭でのニーズ把握も行っている。 ・児童センターでは、親子で参加しやすいように日曜日に事業を実施したり、平日に児童に人気の高い事業を実施するなど、利用者の声を積極的に事業に反映した。	適正(普通) 7点	適正に実施されている。	7点
		②苦情対応	5 期待以上:5点、適正(普通):4点、不備あり:3~1点 ※苦情なしは4点とする	苦情なし。苦情申し出窓口を設置し、苦情対応責任者・苦情受付担当・第三者委員会を設けている。	苦情なし・適正(普通) 4点	苦情に常時対応可能な体制がとられ、適正に実施されている。	4点
	(2)より良い施設運営・事業実施のための提案・姿勢、上記1~3の評価に反映されないその他の成果ポイント(15点)	15 提案、姿勢、その他の成果ポイント(アピール)が期待以上:15~12点、適正(普通):11~9点、普通未満~物足りない:8~0点	<施設管理>地域に根ざした施設となるべく地元地域役員、民生委員、児童委員、福祉委員等の他学校や保育園などとも協力・連携している。また、地域行事にも積極的に参加 <老人センター>新規事業で男性対象の料理教室を開始。「蕎麦打ち」は、道具も充実させ好評。健康麻雀教室も新規に開始し、男性の利用者増加に努めている。福祉委員の見学会を開催するなど、より気軽に利用できる施設づくりに努めている。 <児童センター> ・地域の意見に応え、児童センターだよりの配布先を滝呂小学校のみから滝呂保育園・大和幼稚園へ拡大。 ・同指定管理児童館との共催事業を行い、校区外の親子の交流を図った。 ・講師を招いて実技研修(工作・一輪車・防犯訓練・AED・支援児について)、職員研修(社協全体研修・東濃ブロック研修・各館持ち寄り体操や作品交流研修)を実施した。 ・毎月1回 代表者会議・夜常勤職員会を実施し、各館との交流・ヒアリングなど周知している。	期待以上 13点	・駐車場が少なく、イベント、教室等の参加者が多い際には、周辺が混雑するため、職員が外に出て誘導を行うなど安全面の配慮をしている。 ・複合施設の特徴を活かし、遊戯室で、児童と高齢者の共催事業を多数企画実施している。	13点	
5 その他(減点方式)	(1)報告書類の提出状況	0 提出書類の遅れ・不備に応じて減点対象とする(遅れ・不備内容の程度により△1~△3点) 一部遅れ・不備あり(軽微):△1、一部遅れ・不備あり(中程度):△2、一部遅れ・不備あり(それ以下):△3	提出書類の遅れなし		遅れ・不備なし 減点なし	適正に実施されている。	0点
	(2)市からの指示等への対応(報告書類の提出以外)等	0 指示への対応等に応じて減点対象とする(対応等の内容により△1~△3点) 指示等なし・対応等が期待どおり:減点なし、対応等が期待以下(軽微):△1、対応等が期待以下(中程度):△2、対応等が期待以下(それ以下):△3	対応に問題なし		指示等なし・対応等が期待どおり 減点なし	適正に実施されている。	0点
合計		100	【4段階評価】 極めて良好 100~85点 良好 84~65点 努力が必要 64~45点 取消し等を検討 44点以下			合計83点	
						全体的な評価 ・良好な管理がされている。 ・参加者の満足度、地域との連携などは良好である。	良好